

Bonjour!!

2017年
2月9日号

Vol.343



2月の見通し 上向く景気、くすぶるリスク

● 株式を中立から強気へ

世界的に経済活動のモメンタムは改善しており、企業の業績見通しにも明るい兆しが見られます。また、米新政権の景気刺激的な政策は世界経済のさらなる拡大に寄与すると予想しています。**良好な投資環境を背景として、株式の評価をニュートラル(中立)からオーバーウェイト(強気)に引き上げます。**

● トランプ大統領は「有言実行」

1月25日、NYダウ工業株30種は史上初となる2万ドル超えを達成しました。株価が上向く背景の一つは、トランプ大統領がビジネスを後押しする公約を有言実行に移していることが挙げられます。しかし、他の有言実行はイスラム圏7カ国からの入国禁止等至るところで軋轢を生んでいます。さらに世界を不安にさせているのは、米国の貿易赤字を問題視するトランプ大統領が「**米国第一主義**」の名の下に保護主義政策を闇雲に進めようとしている点です。米国にとって最大の貿易赤字国である中国そしてメキシコについては、高い関税を課すと述べています。また、トランプ政権は北米自由貿易協定(NAFTA)の見直しに臨む姿勢を見せているほか、環太平洋経済連携協定(TPP)離脱の大統領令に署名したことは、日本の通商政策にも大きな影響を及ぼすと思われます。

● 日経平均、2万円乗せ十分ある

このように**足下の金融市場は、好調な世界経済と米国発の政治リスクとの間で揺れ動いています。**

一時は2万円に迫るかと思われた日経平均株価も、米国の保護主義的な側面への懸念やフランス大統領選挙で極右政党が勝利する可能性が意識されたことなどから、19,000円を挟んでのもみ合いとなっています。しかし、トランプ大統領の経済政策の目玉である減税とインフラ投資政策という材料が明らかになるのは、これからが本番です。米国の景気刺激策が打ち出されれば、市場参加者はトランプ大統領の有言実行ぶりを改めて評価する可能性があります。割高感が指摘される米国株式市場のバリュエーション(投資価値評価)についても、米国経済が2%成長を達成し、米ドルが安定するとの見通しを前提とするならば、米国企業の予想増益率は現在の+12%よりも加速すると予想され、堅調な企業業績は株価を下支える材料になると考えています。日経平均株価についても、当面は18,000~20,000円の保ち合い相場が続くと思われるものの、上述の下支え要因を考えれば、**2017年3月期の決算内容を見極めたうえで20,000円台の大台に乗せてくる可能性は十分にあると見ています。**それまでは目先の動きに一喜一憂して大勢を見誤ることのないようにしたいものです。

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。